

河瀬直美、オペラ初演出に挑む!!

STORY 原作&新演出のポイント

原作の舞台は、ナポレオン時代(1800年代)のローマ。恋人同士の画家カヴァラドッシと歌姫トスカ。そこへ警視總監のスカルビアに追われた友人アンジェロツァが逃げ込み、彼をかばったことによりカヴァラドッシは処刑され、最後にはトスカも身を投げてしまいます。しかし河瀬直美版新演出《トスカ》の舞台は、古代日本の雰囲気漂う「牢魔」という名のとある集落。スリルに満ちた陰謀、壮絶な愛と死を、「祝祭の1日に起きた悲劇」として描きます。またもう一つの注目は、映像と舞台美術の融合。河瀬の強い希望で舞台美術を手がけるのは、ニューヨーク在住の重松象平。人気番組「情熱大陸」(MRO北陸放送)でも取り上げられ、一躍脚光を浴びた気鋭の建築家です。河瀬率いる世界最高峰の映像スタッフと、世界をまたにかけて活躍する建築家とのコラボは、この作品に新たな息吹を吹き込むことでしょう。

プッチーニ

PUCCINI
"TOSCA"

トスカ

演出／河瀬 直美

オペラ演出の経験がないわたしにプッチーニのトスカを演出しないかというお話。ああ、オペラはそれほど自由なのかと畏れ入った。「自由」ほど難しいものはないが、演出依頼の理由はこうだ。「主人公初め、主要人物がみんな死んでしまう救いようのない悲劇」そんな異名をもつ本作品に「希望」を与えられる作家だと思うから。大役を仰せつかった。けれど、物怖じしてはいられない。初挑戦に心はたかぶる。そんなこんなでお引き受けしたオペラ演出のお仕事。お仕事とは思えない感情。創作というものの原点に立ち戻るような感覚の中で初めての事柄に右往左往しながら、それでもかの「希望」に向かって突き進むのである。

河瀬 直美 Naomi Kawase
映画作家。生まれ育った奈良で映画を創り続ける。1997年劇場映画デビュー作「萌の朱雀」で、カンヌ国際映画祭カメラドール(新人監督賞)を史上最年少受賞。2007年「殞の森」で、審査員特別大賞グランプリを受賞。昨年は短編部門、シネフォンダシオン部門の審査委員長を務める。映画監督の他、CM演出、エッセイ執筆などジャンルにこだわらず表現活動を続け、故郷の奈良において「なら国際映画祭」をオーガナイズしながら次世代の育成にも力を入れている。最新作「光」が第70回カンヌ国際映画祭で「エキュメニカル審査員賞」受賞
公式サイト www.kawasenaomi.com 公式ツイッターアカウント @KawaseNAOMI



指揮／ 広上 淳一

Junichi Hirokami

東京生まれ。東京音楽大学指揮科に学ぶ。第1回キリル・コンドラシン国際指揮者コンクールに優勝し、国際的な活動を開始。これまでノール・ショピング響首席指揮者、日本フィル正指揮者、ロイヤル・リヴァプール・フィル首席客演指揮者、リンブルク響首席指揮者、米国コロンバス響音楽監督を歴任する傍ら、フランス国立管、ベルリン放送響、ウィーン響、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、ニュージーランド響などに定期的に客演。国内では全国各地のオーケストラはもとより、サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管弦楽団にも客演。またオペラの分野でも、シドニー歌劇場《仮面舞踏会》、《リゴレット》、日生劇場《アイナダマール》(日本初演)、《ドン・ジョヴァンニ》、新国立劇場《椿姫》、《アイーダ》等での成功が特筆される。京都市交響楽団常任指揮者兼ミュージック・アドバイザー。東京音楽大学指揮科教授。



管弦楽：オーケストラ・アンサンブル金沢

Orchestra Ensemble Kanazawa

1988年、故岩城宏之が創設音楽監督を務め、日本初のプロ室内オーケストラとして石川県と金沢市が設立。石川県立音楽堂を本拠地とし、2007年より音楽監督に井上道義を迎え、年間100回を超える定期演奏、室内楽、オペラ公演をはじめ様々な活動を展開し、国内外で活躍している。

合唱：金沢オペラ合唱団 Kanazawa Opera Choir

厳しいオーディションで選ばれた精鋭達。北陸はもとより中部圏からも参加。年齢も20代から60代まで世代を超えたチーム力で活躍中。
合唱指導：香田裕泰

児童合唱：OEKエンジェルコーラス OEK Angel Choir

1997年ウィーン少年合唱団金沢公演での共演をきっかけに結成された小学生から高校生までの石川県内の子どもたちによる合唱団。2002年9月、故岩城宏之指揮、OEKとの共演で谷川俊太郎詩、三善晃作曲の「三つのイメージ」初演。その他オペラ「トスカ」、「カルメン」、「ラ・ボエム」、オペレッタ「こもり」他多数参加し、好評を博している。
合唱指導：清水史津・仲谷響子

河瀬版『トスカ』 人物相関図



Cast

トスカ

ルイザ・アルブレヒトヴァ /ソプラノ Luisa Albrechtova

ブラハ生まれ。2009年ウィーン国立音楽大学で声楽、オペラを学ぶ。2009年ドイツ・パッサウ国際歌唱コンクール第2位。2009年サンドロ・クトゥレーロ指揮ウィンナー・ワルツ・オーケストラのニュー・イヤヤー・コンサート日本ツアーに参加。2010年バーデン劇場でオペレッタ「ジプシー・ヴァイオリニスト」ジュリエッタ役で出演。2012年プラティスラヴァ・スロヴァキア国立劇場にてマリア・レジア(世界初演)に出演。

カバラ導師・万里生(カヴァラドッシ)

アレクサンドル・バディヤ /テノール Alexandru Badea

ルーマニア出身。わずか20歳でブカレスト国立歌劇場の一員として注目を浴び、その後ザルツブルク歌劇場の出演も果たす。これまでに世界の主要な歌劇場に出演。ワシントン歌劇場で、その芸術監督であるブラジド・ドミンゴの招きにより、ベッリーニの「清教徒」に出演する。共同制作オペラでは2007年金沢&東京芸術劇場「トゥーランドット」(井上道義指揮)にカラフ役で参加し好評を得た。

須賀ルビオ(スカルビア) 三戸 大久 /バリトン Hirohisa San-nohe

青森市出身。武蔵野音楽大学卒業。二期会オペラ研究所マスタークラス修了。第40回イタリア声楽コンクール・シエナ部門金賞。第46回日伊声楽コンクール第3位。平成25年度文化庁新進芸術家海外研修員としてウィーンにて研鑽を積む。2015年12月、神奈川県民ホール開館40周年オペラ「金閣寺」道詮和尚で出演。二期会会員。

アンジェロツァ(アンジェロツァ) 森 雅史 /バス Masashi Mori

富山県高岡市出身。国立音楽大学卒業。東京藝術大学大学院修了。新国立劇場オペラ研究所修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノに留学の後、ボローニャ歌劇場オペラ研究所に在籍。2015年全国共同制作オペラ「フィガロの結婚」"庭師は見た"前期公演にバルトロ役で出演。名古屋音楽大学専任講師。二期会会員。

堂森(堂守)三浦 克次 /バス・バリトン Katsuji Miura

新潟県出身。明治大学法学部卒業後、東京声専音楽学校卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。国際ロータリー財団奨学生、五島記念文化財団奨学生としてイタリアへ留学。E.パステリアーニ国際コンクールで第3位。これまでに藤原歌劇団や新国立劇場における数々の公演に出演。第21回ジロー・オペラ賞受賞。昭和音楽大学講師。藤原歌劇団員。千葉市在住。

スポレッタ(スポレッタ)与儀 巧 /テノール Takumi Yogi

沖縄県出身。国立音楽大学大学院修了。イタリアボローニャにて1年間研鑽。2013年紀尾井ホールにてリサイタル。2014年東京二期会「イドメネオ」タイトルロール。2015年「ウィーン気質」ツェドラー伯爵役。その他2013年NHK-FM「リサイタル ノヴァ」、「NHK ニューイヤーパーラコンサート」へは2014年以降連続出演。二期会会員。現在、国立音楽大学非常勤講師。

シャル郎(シャルローネ)高橋 洋介 /バリトン Yosuke Takahashi

東京藝術大学声楽科卒業。同大学院修了。新国立劇場オペラ研究所へと進み、文化庁新進芸術家海外派遣制度の派遣員として渡英。留学後は東京文化会館主催オペラBOXでビゼー「カルメン」エスカミール役等へ出演。第9回東京音楽コンクール2位及び聴衆賞を受賞。第19回コンセール・マロニエ21第1位。現在シトウツガルト国立音楽大学在学中。

看守 原田 勇雅 /バリトン Yuya Harada

埼玉県出身。東京藝術大学及び、同大学院修了。イタリア国立バルマ音楽院首席修了。文化庁在外研修員としてイタリアにて研鑽を積む。全日本学生音楽コンクール第1位、イタリア声楽コンクール第1位など、内外で多数の音楽賞を受賞。現在、東京藝術大学博士課程在籍。熊谷少年少女合唱団音楽監督。日本声楽アカデミー会員。二期会会員。

副指揮：辻 博之

コレペイトール：服部 容子

舞台美術：重松 象平

照明：吉本 有輝子

音響：石丸 耕一

衣裳：堂本 教子

映像：河瀬 直美

ヘアメイク：フォレスト

舞台監督：酒井 健、金子 芳浩

演出補：菅尾 友

演出助手：太田 麻衣子、堀川 炎

表紙デザイン：Creative Land 晴れ日

プロダクションマネージャー：關 秀哉

総合プロデューサー：山田 正幸

※やむを得ない理由により、出演者等に変更が生じる場合がございます。